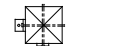


※ 混構造の場合、アンカーボルト等の納まりを参考にする事

ホールダウン金物を柱に2ヶ所、設置する場合の施工令

直交する場合の納め方



金物を上下方向に45mmずらす

下図は上下階のホールダウンの耐力が同じものを使用する時の接合方法

下図は上下階のホールダウンに耐力差を設ける時の接合方法
(例) 100KN

ホールダウン金物

角ボルト
(又はM16)

六角ボルト
(M12又はM16)

ホールダウン金物

1. アンカーボルトのコンクリート基礎への埋込長さはA-60、A-70は360mm以上、A-40は250mm以上とし、埋込位置のマーク（埋込マークの中心のポイント）の外に確認する。
2. アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。
3. アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準面に正しく合せ、適切な機器などにより正確の行う。
4. アンカーボルトの保持は、型板を用いる等して正確に行い、移動、下部の振れ等のない様に充分固定する。
5. アンカーボルトは衝撃等による有害な曲がりが生じない様に取り扱い
ねじ部の損傷、さびの発生、汚損を防止する為、ビニールテープ等を巻いて養生を行う。
6. ホールダウン金物（HDB又はHDN）を専用アンカーボルトで直接繋結する場合は、取り付け柱面より40mm（±5mm）の位置に専用アンカーボルトを正確に埋め込む。
スリム7角のホールダウン金物（SHD）を用いる場合は、柱面より31mm（±1mm）の位置に埋め込む。
7. ホールダウン金物を座金付キボルト（M16G）で繋結する場合は、土台材に亀裂が生じないように、座金付キボルトの芯より150mm内外の距離をとり専用アンカーボルトを埋め込む。
8. アンカーボルトの保持および埋込方法は鉄筋などを用いて組立て、適切な補強材で型枠、鉄筋等に固定してコンクリートの打ち込みを行う。

1. ホールダウン金物は柱に上下、前後として締め付け30mm程度と、六角ボルト（M12）、ラグスクリュー（LS12）で柱に固定する。（HENDの場合には、あくZ900）

2. ラグスクリューを用いる場合は位置を正確に決めた後、ねじ部の先穴（ねじ径60～70%）をラグスクリュー長さだけ正確にドリルで開け、次に胴部の先穴（胴部と同径）を胴部の長さだけドリルで開ける。ラグスクリューの挿入は上下で同じで回しながらい、ハンマー等で打ち込んではならない。挿入を容易にするため石けり、又はよりスクリューの潤滑剤を用いてもよい。

3. 座金付六角ボルト（M16W）を用いて土台を介して緊結する場合は、あらかじめホールダウン金物の取付け柱の土台下面に座座り付け、座金付六角ボルトを挿入した後、土台をアンカーボルトにより基礎に緊結するとともに、ホールダウン金物の下部にナットで緊結する。

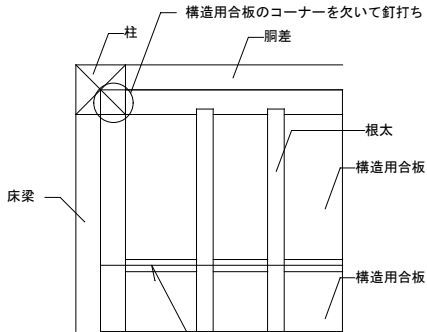
工事名	岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				N o.	設計者 丹羽建築設計事務所 岡山県北中津川町177-7号 1楼設計士事務所303号 丹羽博 〒760-0824 岡山北中津川177-4-21 TEL: 086-226-1135		
図面名	木構造接合部標準詳細図1				細尺	-		
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和7年2月	承認			
	課長	課長補佐	係長	課員	担当書	承認	検図	製図

木構造 接合部標準詳細図（２） 床組、筋違の仕口

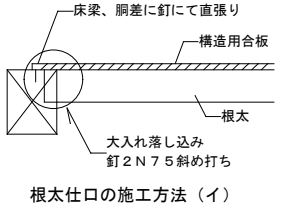
床組（剛な床組）

床下地板は構造用合板12mm以上を使用し、合板の四周辺は床梁、胴差または受け材等に固定する。断面寸法105mmx105mm以上の床梁を1,820mm内外の間隔に梁間方向または桁方向に配置する。

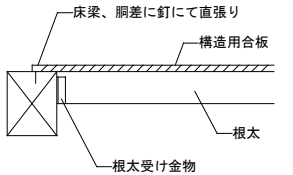
根太と床梁、胴差の上端高さが同じ場合



根太仕口の施工方法は下記（イ）、（ロ）のいずれかによる。



根太仕口の施工方法（イ）

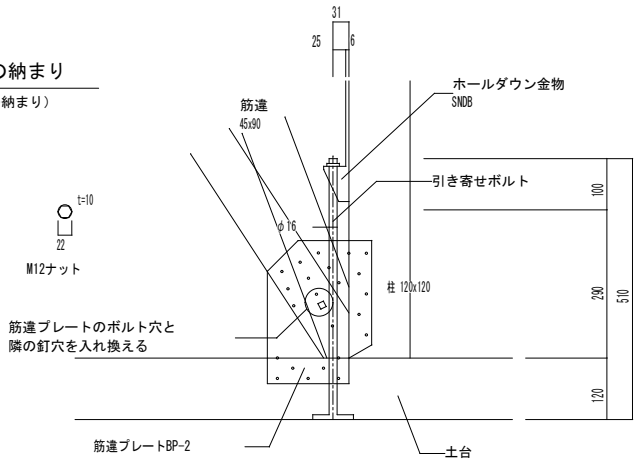


根太仕口の施工方法（ロ）

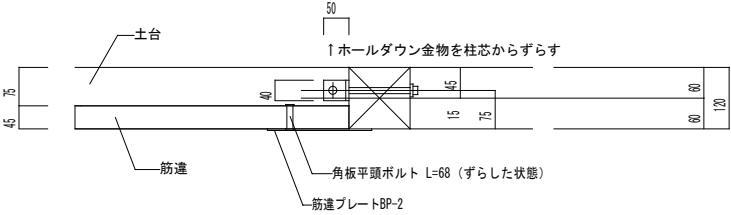
床梁、胴差に釘にて直張り

筋違プレートとホールダウン金物を同じ側に取り付ける場合の納まり

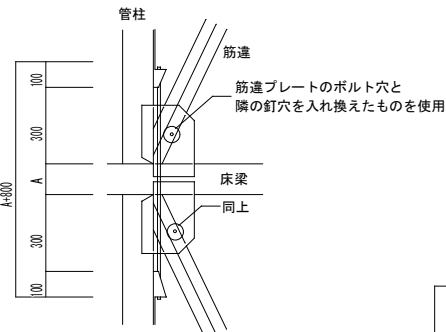
土台の納まり
（大壁の納まり）



（土台が120mmの時産金付ボルトL=510mmを使用する）



床梁との納まり



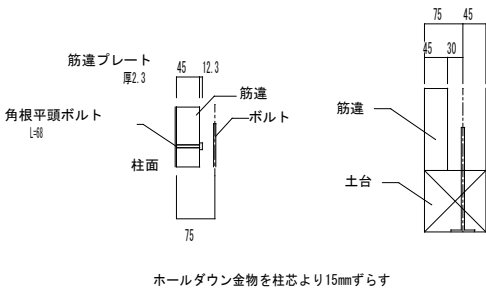
床梁（梁せいがAの時、ボルト長さL=A+800を使用する）

梁せいによるボルト長さ（mm）

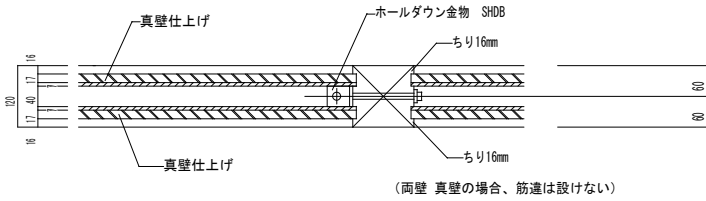
梁せい	筋違が上下の一方にある時	筋違が上下にある時
A	A+400	A+800
120	520	920
150	550	950
190	580	980
210	610	1010

筋違とホールダウン金物の納まり

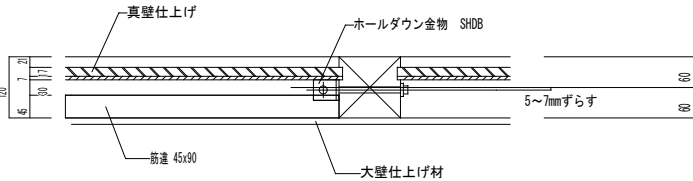
大壁の場合



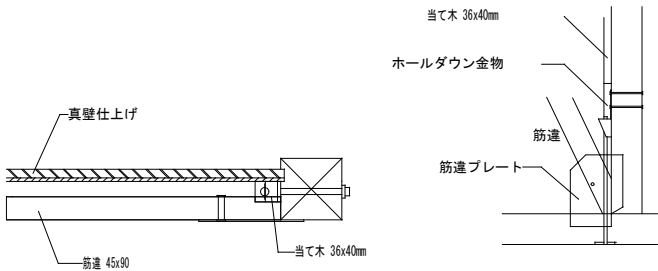
両側 真壁
（塗り壁）



片側 真壁

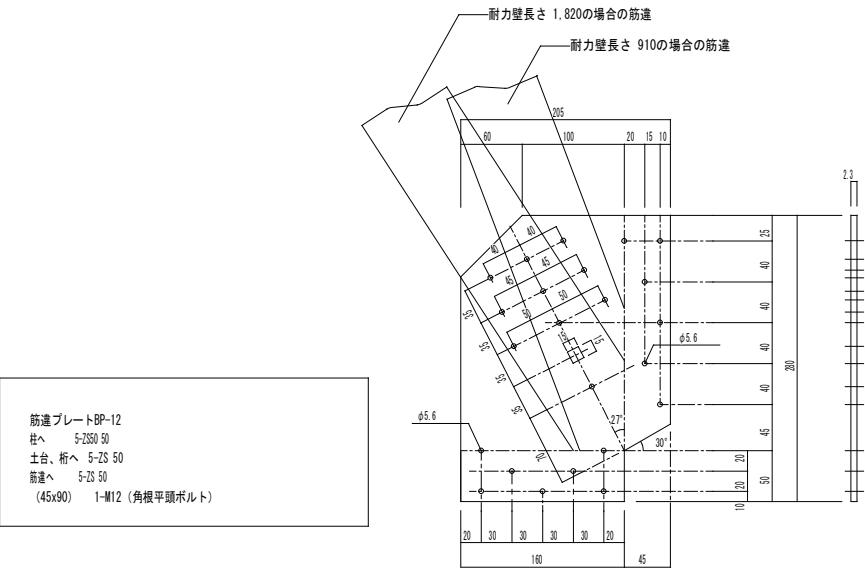


真壁における
当て木の納まり
（準防火地域
防火用当て木）



ホールダウン金物とボルトが当たる場合は現場合わせで納める

筋違プレート（BP-2）詳細図



工事名		岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事			No.		株式会社 丹羽建築設計事務所 岡山県高砂市豊後第1776号 1級建築士登録第220100号 丹羽明人 〒700-0824 岡山県北区内山下1-4-21 TEL: 086-226-1135	
図面名		木構造接合部標準詳細図2			縮尺		-	
岡山市		都市整備局 住宅・建設部 公共建築課			令和7年2月		S-04	
課長		課長補佐		係長	課員		担当	
							承認	
							検図	
							製図	

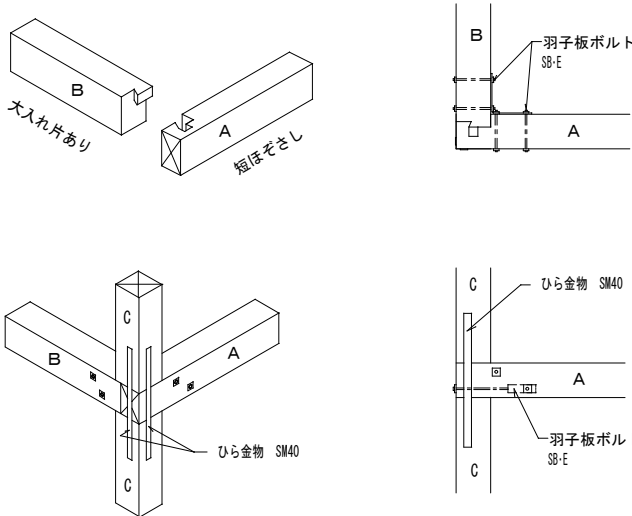
木構造 接合部標準詳細図 (3) 横架材の納まり

注記 入隅部分については、出隅の場合に準ずる。但し準ずることが困難な場合は、通し柱とする。

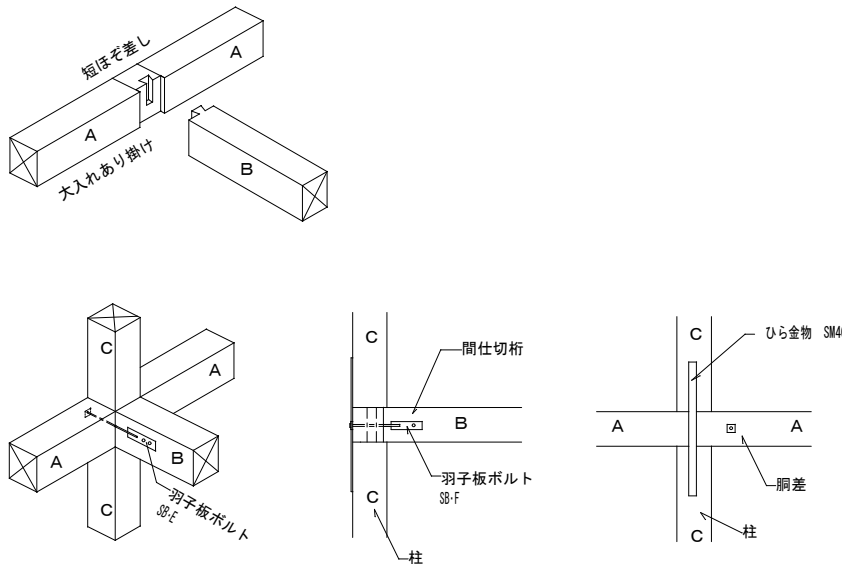
出隅、隅柱

側柱（隅柱に準ずる柱）

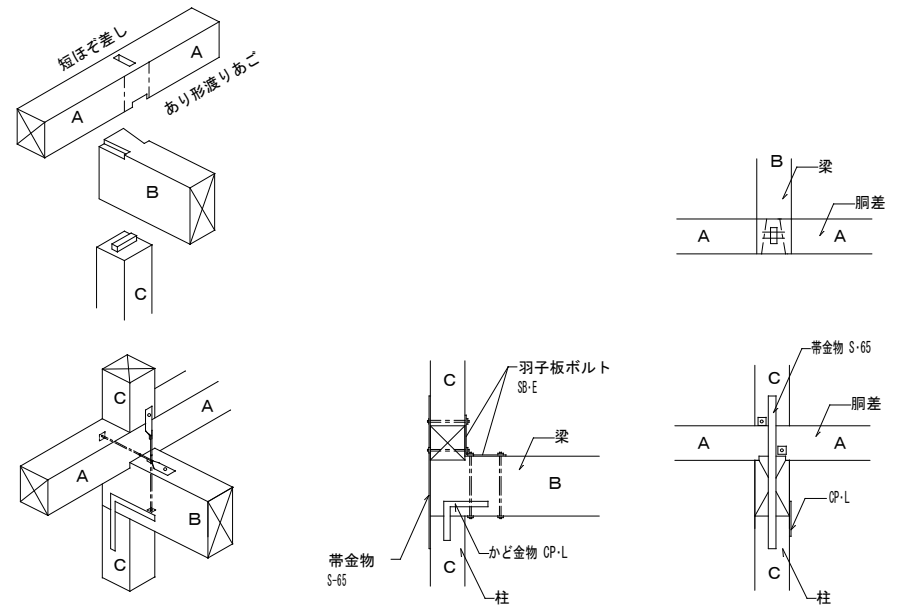
A. 直交する胴差がほぼ同寸で、かつ同一高さで取合う場合



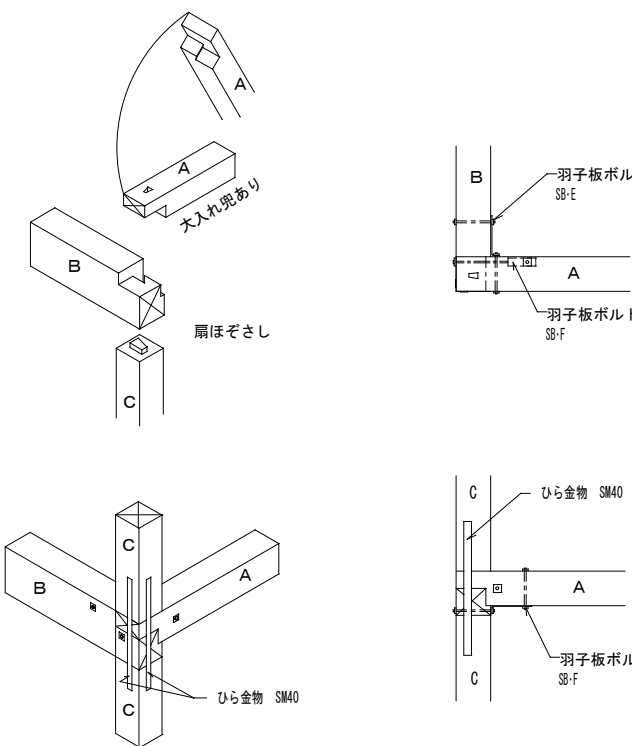
A. 胴差と直交する間仕切桁が胴差と同寸程度で取合う場合



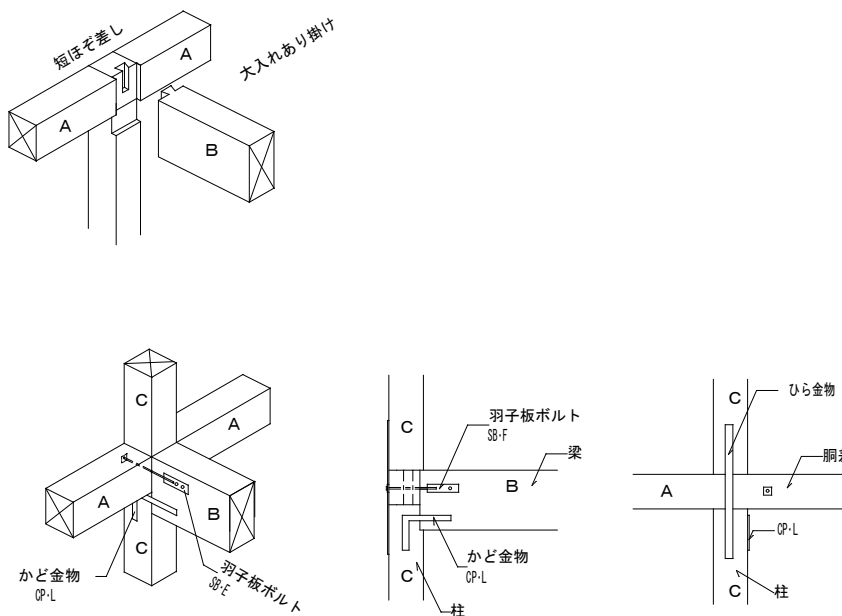
C. 胴差と直交する梁が胴差の下側にある場合



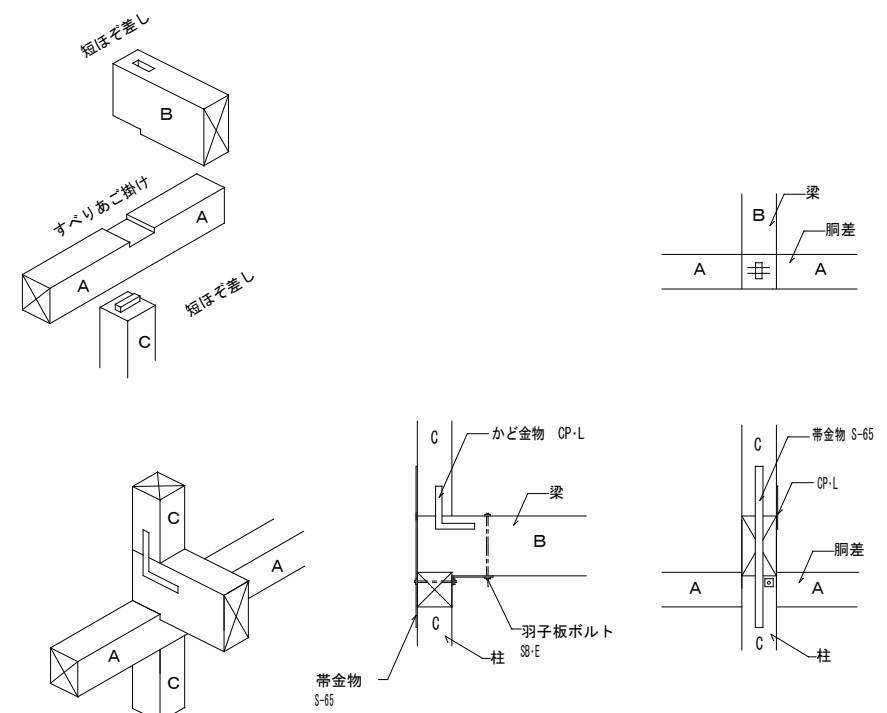
B. 直交する胴差のせいが異なり段違いで取合う場合



B. 胴差と直交する梁が上端でそろう場合



D. 胴差と直交する梁が胴差の上側にある場合



工事名	岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				No.	株式会社 羽羽建築設計事務所 岡山県北守谷郡新井1770号 1888282-2 岡山市230-0040 月 9999月入 TEL 086-24 岡山市北守谷郡新井1770-4-2 TEL 086-248-1135
図面名	木構造接合部標準詳細図3			期次		
岡山市	都市整備局	住宅・建築課	公共建築課	令和7年7月2月	S-05	
	課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認
						核図
						製図

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

§ 1 一般共通事項

1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A D16以下	SD295B・SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	
180°					柱・梁の主筋及び杭基礎の ベース筋並びにD16以上の 鉄筋
135°					あばら筋、帯筋、スパイラ ル筋、D13以下の鉄筋
90°					T形及びL形の梁のあばら筋
135° 及び 90°					幅止め筋
90° 以下					その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径
2. dは、棒に用いた数値
3. 片持ちスラブ角筋、壁筋の自由端側の角筋で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
4. SD390は、()内を適用する。

1. 2 鉄筋の継手

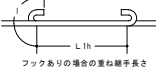
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手(「鉄筋の継手の構造方法を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1463号)に適合する機械式継手)とし、適用は特記による。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)7.6.5[部材の組立](d)及び7.6.7[溶接施工]格者]に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。
- 重ね継手は、次にによる。

なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

- 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、突起による。特記がなければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。
- 1) 以下の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24、27	35d	25d
	30、33、36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24、27	40d	30d
	30、33、36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24、27	45d	35d
	30、33、36	40d	30d

(注) 1. L1、L1h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1hは、下面に示すようにフック部分Iを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。



フックありの場合の重ね継手長さ

1. 3 隣り合う継手の位置

- 隣合う継手の位置は下記表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。
なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所にはける場合は、特記による。

重ね 継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
圧接 継手	—	
機械式 継手	—	

1. 4 鉄筋の定着

1. 4. 1 鉄筋の定着の長さ

- 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、40d(軽量コンクリートの場合は50d)と下記表の定着長さのうち大きい値とする。
- (2) (1)以外の鉄筋の定着の長さは、下記表による。

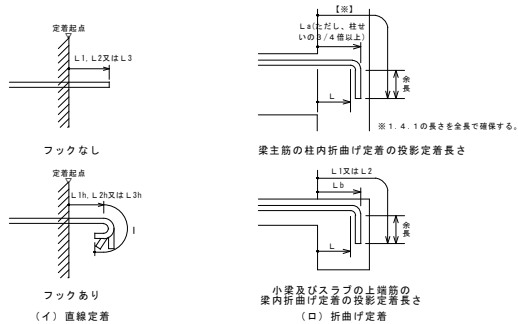
鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	フックなし			フックあり			
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h	
SD295A SD295B	18	45d	40d	小梁 スラブ	35d	30d	小梁 スラブ	
	21	40d	35d		30d	25d		
	24、27	35d	30d		25d	20d		
	30、33、36	35d	30d		25d	20d		
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	10d	—
	21	45d	35d	10d かつ 150mm 以上	30d	25d		
	24、27	40d	35d		30d	25d		
	30、33、36	35d	30d		25d	20d		
SD390	21	50d	40d		35d	30d		
	24、27	45d	40d		35d	30d		
	30、33、36	40d	35d		30d	25d		

(注) 1. L1、L1h: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L2、L2h: 引張り鉄筋の柱内折曲げ定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合には、1.4.2に示すようにフック部分Iを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

1. 4. 2 定着の方法

- 定着の方法は下記による。

- 仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さしが、1.4.1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を1.4.1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上)をのみ込ませる。

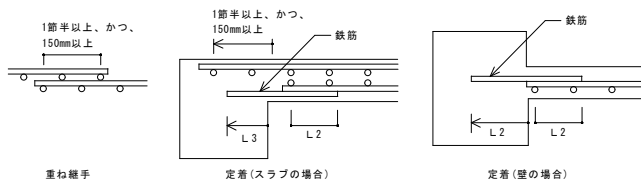


鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24、27	15d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24、27	20d	15d
	30、33、36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24、27	20d	20d
	30、33、36	20d	15d

(注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

1. 4. 3 溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は下記による。なお、L2及びL3は、1.4.1の(注)による。



1. 5 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

1. 5. 1 鉄筋の最小かぶり厚さ

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。
- 貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。
- 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

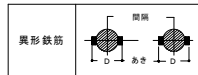
構 造 部 分 の 種 別	最小かぶり厚さ	
	土に接する部分	土に接しない部分
土に接しない部分	スラブ・耐力壁以外の壁	仕上げあり 20 仕上げなし 30
	柱	屋内 仕上げあり 30 仕上げなし 30
	梁	屋内 仕上げあり 30 仕上げなし 40
	耐力壁	屋内 仕上げあり 30 仕上げなし 40
	換気、耐圧スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	≧40
土に接する部分	基礎、換気、耐圧スラブ	≧60
	煙突等高温を受ける部分	60

(注) 1. 最小かぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上層材、塗膜等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び換気壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、普通コンクリートの厚さを含まない。
4. 換気壁の最小かぶり厚さは、換気壁からする。
5. 換気を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

1. 5. 2 鉄筋の間隔

- 鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のものととする。

- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- 25mm
- 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名に用いた数値)の1.5倍
- 鉄筋鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきは上記(1)～(3)のうち最大のものととする。



(注) D: 鉄筋の最大外径

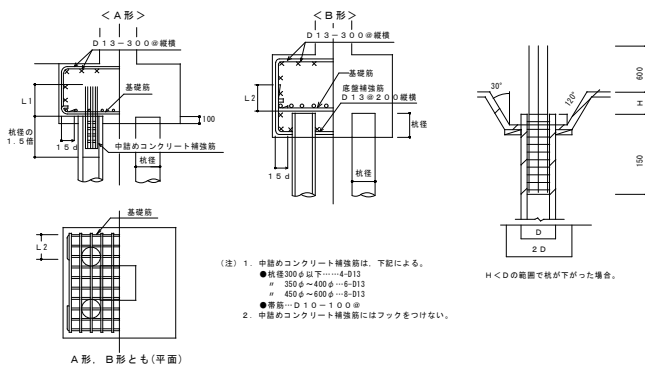
§ 2 基礎及び基礎梁の配筋

2. 1 基礎の配筋

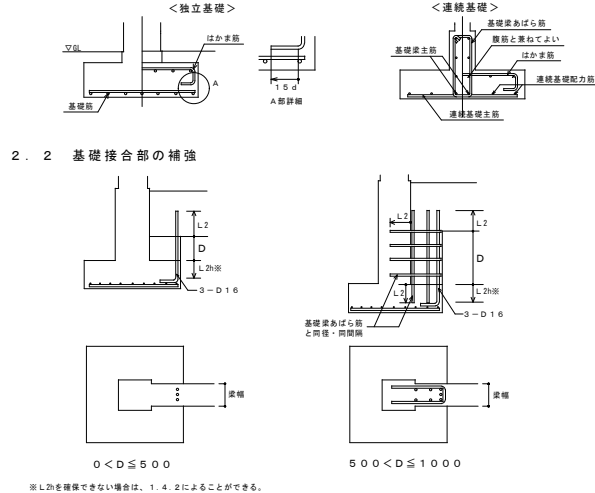
- 一般事項
- 基礎梁のはかま筋は縦筋、横筋ともD13～300@を標準とする。
- 地盤の種類及び厚さは特記する。ただし捨コンクリート厚さ50mm、砂利地盤厚さ60mmを標準とする。

2. 1. 2 基礎の配筋及び杭基礎補強の方法

- 杭基礎の場合



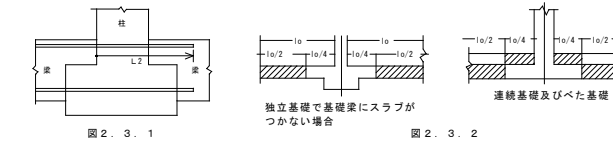
2. 2 基礎接合部の補強



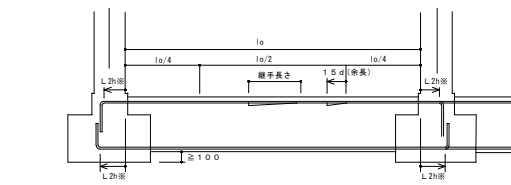
2. 3 基礎梁筋の継手、定着及び余長

2. 3. 1 一般事項

- 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図2.2.1による。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、4.1.1(3)による。
- 継手中心位置は図2.3.2の斜線部分とする。

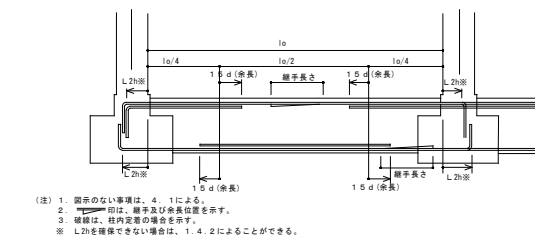


2. 3. 2 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合

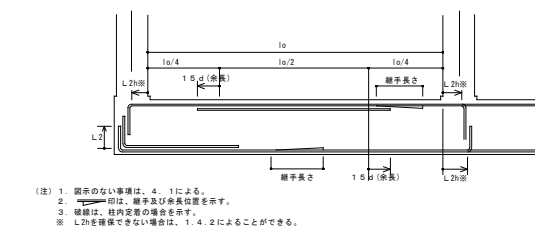


(注) 1. 図示のない事項は、4.1による。
2. 隅部切角は、継手及び余長位置を示す。
3. 縦筋は、柱内定着の場合を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

2. 3. 3 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合(耐力スラブが付く場合は、2.3.4による)

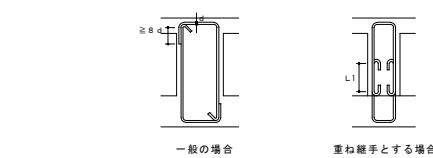


2. 3. 4 連続基礎及びべた基礎の場合



2. 4 基礎梁のあばら筋

- あばら筋組立の形及びフックの位置は、4.2.2による。
- 梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。

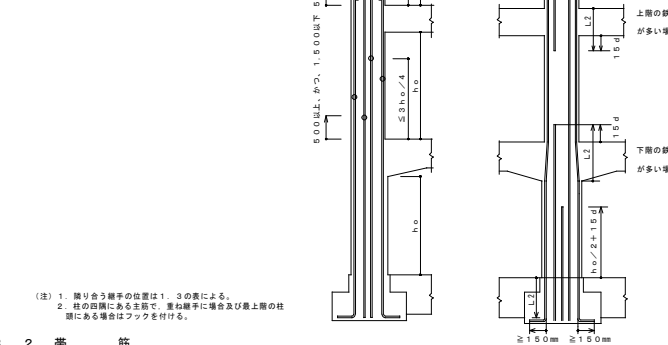


§ 3 柱

3. 1 柱筋の継手及び定着

3. 1. 1 一般事項

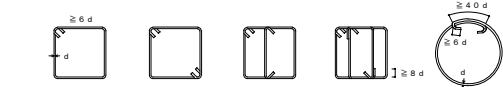
- 継手中心位置は、梁上端から500mm以上1,500mm以下、かつ3h_o/4(h_oは柱の内法高さ)以下とする。
- 柱頭定着長さL2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確認を行うものとする。
- 柱頭柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。



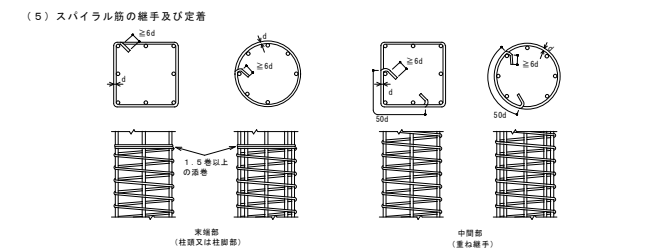
3. 2 帯筋

3. 2. 1 帯筋

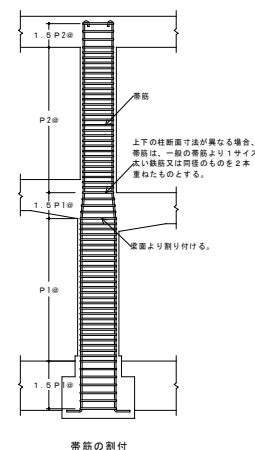
- 帯筋の種類及び間隔は、特記による。
- 帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 上下の柱断面寸法が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。



工事名		岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事			No.		所在地 丹羽建築設計事務所 岡山県和歌山県建設部第1776号	
図面名		鉄筋コンクリート構造配筋標準図Ⅰ			縮尺	—	S-06 1級建築士登録第20100号 丹羽剛人 〒700-0824 岡山市北区内山下1-4-21 TEL. 086-226-1135	
岡山市 都市整備局 住宅・建設部 公共建築課					令和7年2月			
課長		課長補佐		係長	課員	担当者	承認	検図 製図



(6) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔とする。

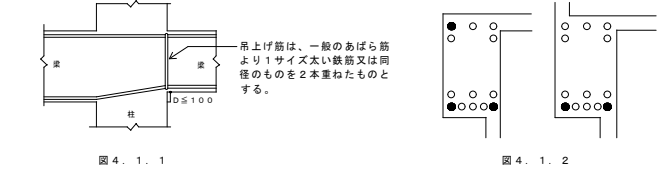


§ 4 梁

4. 1 大ばり筋の継手、定着及び余長

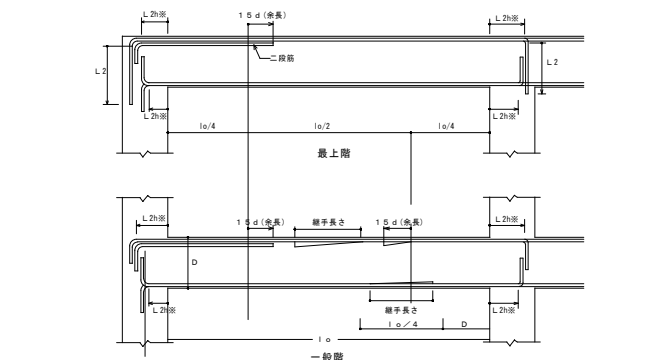
4. 1. 1 一般事項

- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より奥せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(3)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は右図による。
- (3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
- なお、定着の方法は、1. 4. 2による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。
- (4) 段違いは、図4. 1. 1によることができる。
- (5) 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の両端(図4. 1. 2の●印)にある場合はフックを付ける。ただし、基礎梁を除く。



4. 1. 2 ハンチのない場合

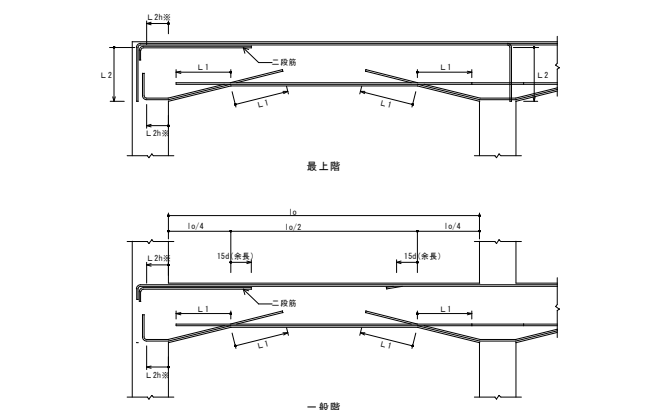
- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より奥せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



(注) 1. 〓印は、継手及び余長を示す。
2. 破線は柱内定着の位置を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

4. 1. 3 ハンチのある場合

- (1) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



(注) 1. 〓印は、継手及び余長を示す。
2. 破線は柱内定着の位置を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

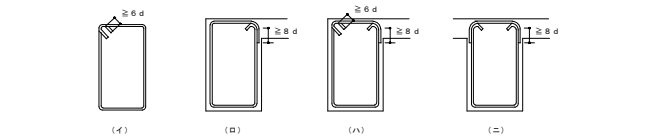
4. 2 あばら筋、腹筋及び幅止め筋

4. 2. 1 一般事項

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- (2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1000@程度とする。
- (3) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (4) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、L2とする。

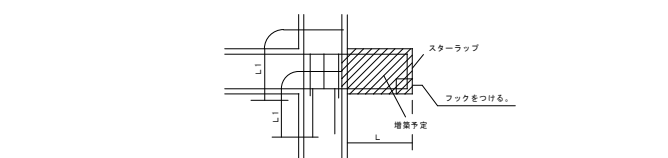
4. 2. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

- (1) 形は、下図(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。



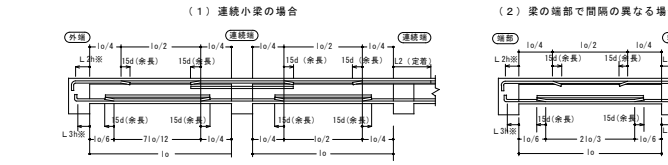
4. 3 増築予定がある場合

- (1) 圧接の場合 $L=1,000$ 、重ね継手の場合 $L=L1+0.5L1$
- (2) 増築取合せ部分の梁主筋は増築用梁まで延長することなく柱にアンカーする。
- (3) 下図ハッチ部分はスタイロホームを入れてコンクリートを打設又はラスマルタルとし現場の状況に応じて指示する。

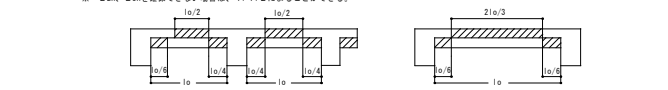


4. 4 小梁及び片持ち梁

4. 4. 1 小梁

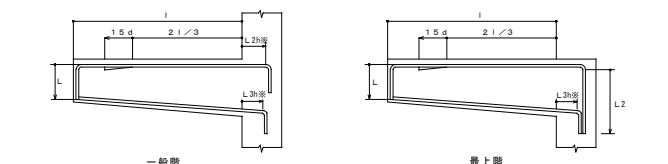


(注) 1. 〓印は、余長位置を示す。
2. 破線は柱内定着の位置を示す。
3. 継手中心位置は下図の斜線部分とする。
4. 定着いりかき(垂直)で余長がない場合、斜めにしてよい。
※ L2h、L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。



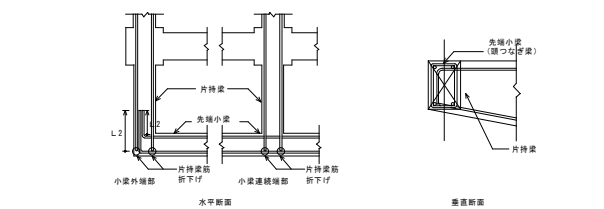
4. 4. 2 片持ち梁

(1) 先端に小梁のない場合



(注) 1. 〓印は、余長の位置は、各ばりの項による。
2. 〓印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、定着いりかき厚さを除いた長さとする。
※ L2h、L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

(2) 先端に小梁がある場合

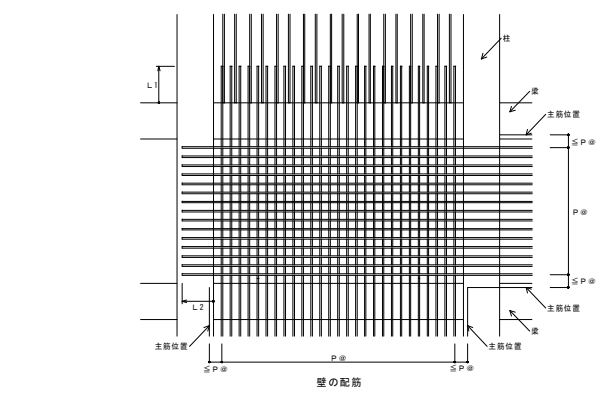


(注) 1. 〓印は、余長の位置は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続部は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

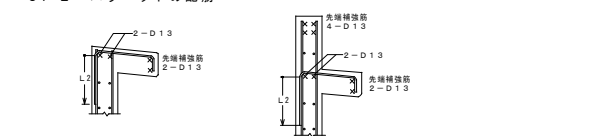
§ 5 壁

5. 1 壁筋の継手及び定着

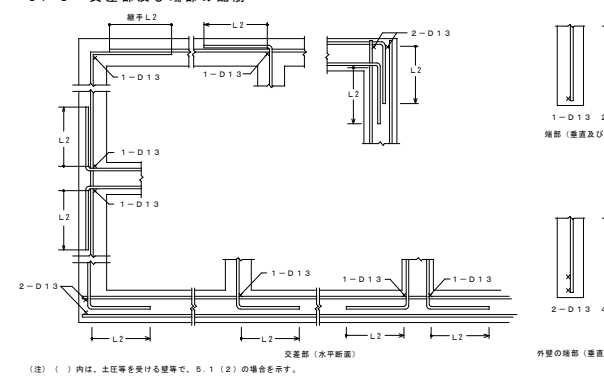
- (1) 壁配筋の重ね継手はL1、定着の長さはL2とする。
- (2) 幅止め筋は、縦横共D10～1,000@程度とする。
- (3) 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはならない。
- (4) 下図のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。



5. 2 パラペットの配筋



5. 3 交差部及び端部の配筋



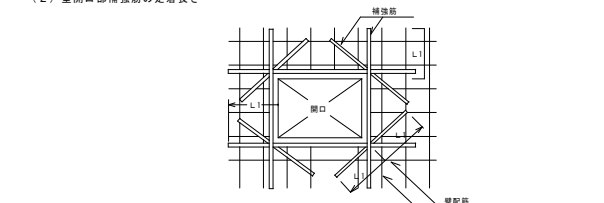
(注) () 内は、主筋等を受ける壁等で、5. 1 (2) の場合を示す。

5. 4 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、A形又はB形とし、特記がなければB形とする。ただし、耐震壁を除く。

壁の種類	A 形		B 形	
	縦 筋	斜 め	縦 筋	斜 め
W12、W15	1-D13	1-D13	W12、W15	2-D13 1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13	W18、W20	4-D13 2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さ

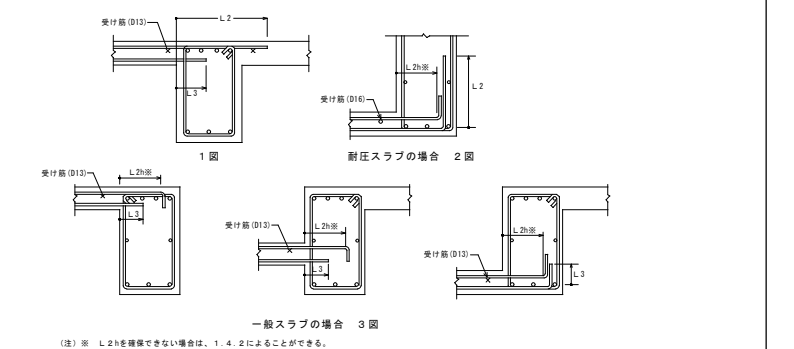


- (3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (4) コンセントボックス等を壁に埋込む場合の補強は、特記による。

§ 6 スラブの配筋

6. 1 スラブ筋の継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3図により梁内に定着する。



- (注) ※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

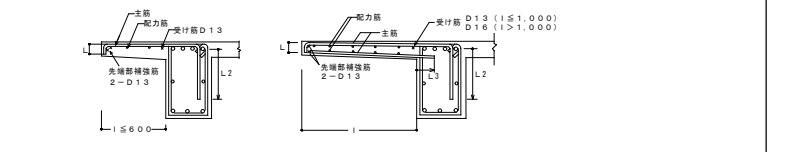
上 端 筋	短辺方向	標準継手位置	
		B	D
下 端 筋	長辺方向	A	B
		A	C・D

(注) 1. 主筋下層筋継手中心はB、D部分をきけること。
2. 配筋下層筋継手中心はA、B部分をきけること。

6. 2 スラブの基準配筋

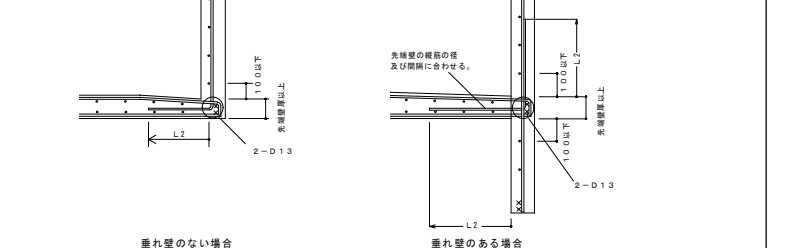
6. 2. 1 片持ちスラブ

- (1) 先端に壁がない場合

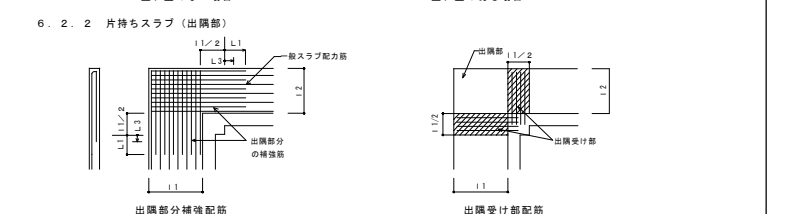


(注) 1. 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

- (2) 先端に壁が付く場合



6. 2. 2 片持ちスラブ(出隅部)

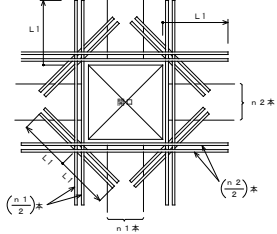


(注) 1. $l_1 \geq l_2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

工事名	岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				No.	株式会社 丹羽建築設計事務所 岡山県和歌山県建設部1776号 1級建築士登録第20100号 丹羽雅人 〒700-0824 岡山市北区内山下1-4-21 TEL. 086-226-1135		
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図2					縮尺	-	
岡山市 都市整備局 住宅・建設部 公共建築課					令和7年2月		承認	
課長		課長補佐		係長	課員		担当者	
							検図 製図	

6. 3 スラブ開口部の補強

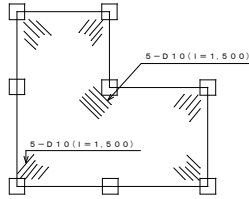
- (1) スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合は、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13(1=2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。
- (2) スラブ開口部の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



6. 4 その他の補強

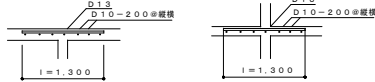
6. 4. 1 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



6. 4. 2 壁付きスラブ

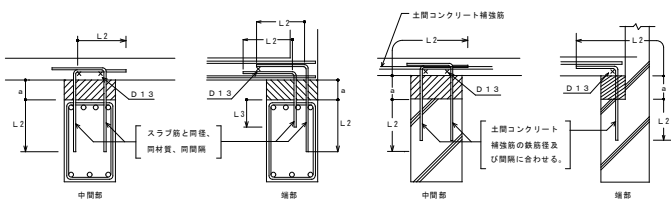
(1) スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。



6. 4. 3 土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強

(1) 土間スラブの打継ぎ補強

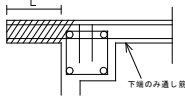
(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



- (注) 1. 土間コンクリートとは、主に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
2. h が300mm以下の場合に限る。

6. 5 増築予定がある場合

- (1) 継手長さ $L=L1+0.5L1$
- (2) 増築取合せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカーする。
- (3) 右図ハッチ部分はラスマタルとし現場の状況に応じて指示する。

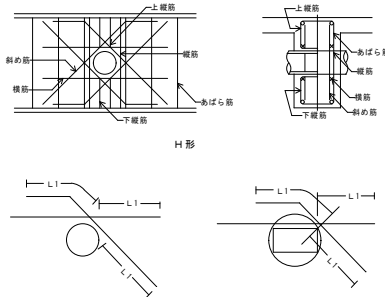


§ 7 梁貫通孔補強

梁貫通孔の補強はこの標準配筋により、孔の形状寸法および配筋種別は特記する。

7. 1 一般事項

- (1) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (2) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (3) 孔は、柱面から、原則として、1.5D(Dは梁せい)以上離す。
- ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
- (4) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (6) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。
- (7) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (8) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (9) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に4面所以上溶接する。
- (10) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



7. 2 補強の形式と種類

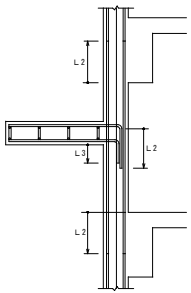
H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) —は、一部部分のあばら筋を示す。

§ 8 階段の配筋

8. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋		
配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

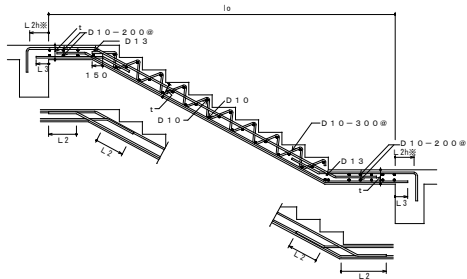


片持スラブ形階段配筋の定着

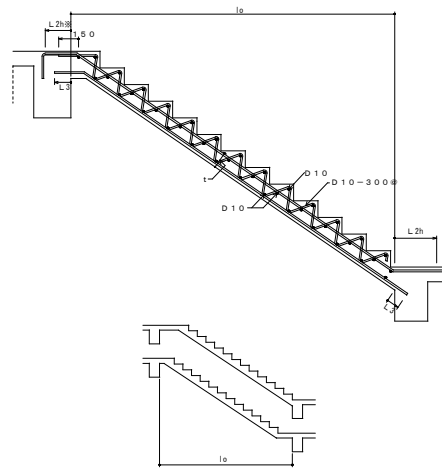
- (注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。
2. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、1.4-1(2)のL3とする。

8. 1 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200φ
KB2	D13-150φ
KB3	D13-100φ
KB4	D13、D16-150φ
KB5	D16-150φ
KB6	D16-125φ
KB7	D16-100φ



二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

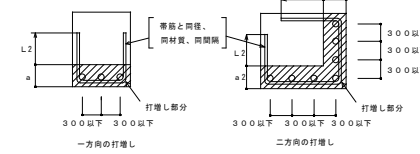


- (注) 1. 右図の場合にも二辺固定スラブ階段配筋を適用する。
- ※ $L2h$ を確保できない場合は、1.4-2によることができる。

二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

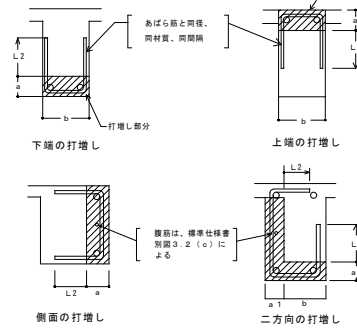
§ 8 その他の補強

8. 1 柱の打増し補強



- (注) 1. 柱の打増し幅(a、a1、a2)が70mm以上の場合は補強を示す。
2. 階段と同一方向の補強筋は、垂直と平行、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。
3. 軸方向の補強間隔は300mm以下とする。

8. 2 梁の打増し補強



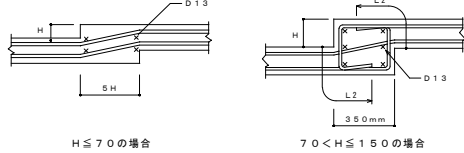
- (注) 1. 梁の打増し幅(a、a1、a2)が70mm以上の場合は補強を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と平行、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

8. 3 壁の打増し補強



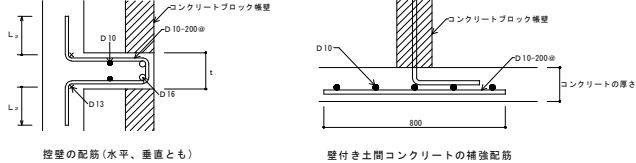
- (注) 1. 壁の打増し幅(a)が50mm以上の場合は補強を示す。

8. 4 段差のあるスラブの補強



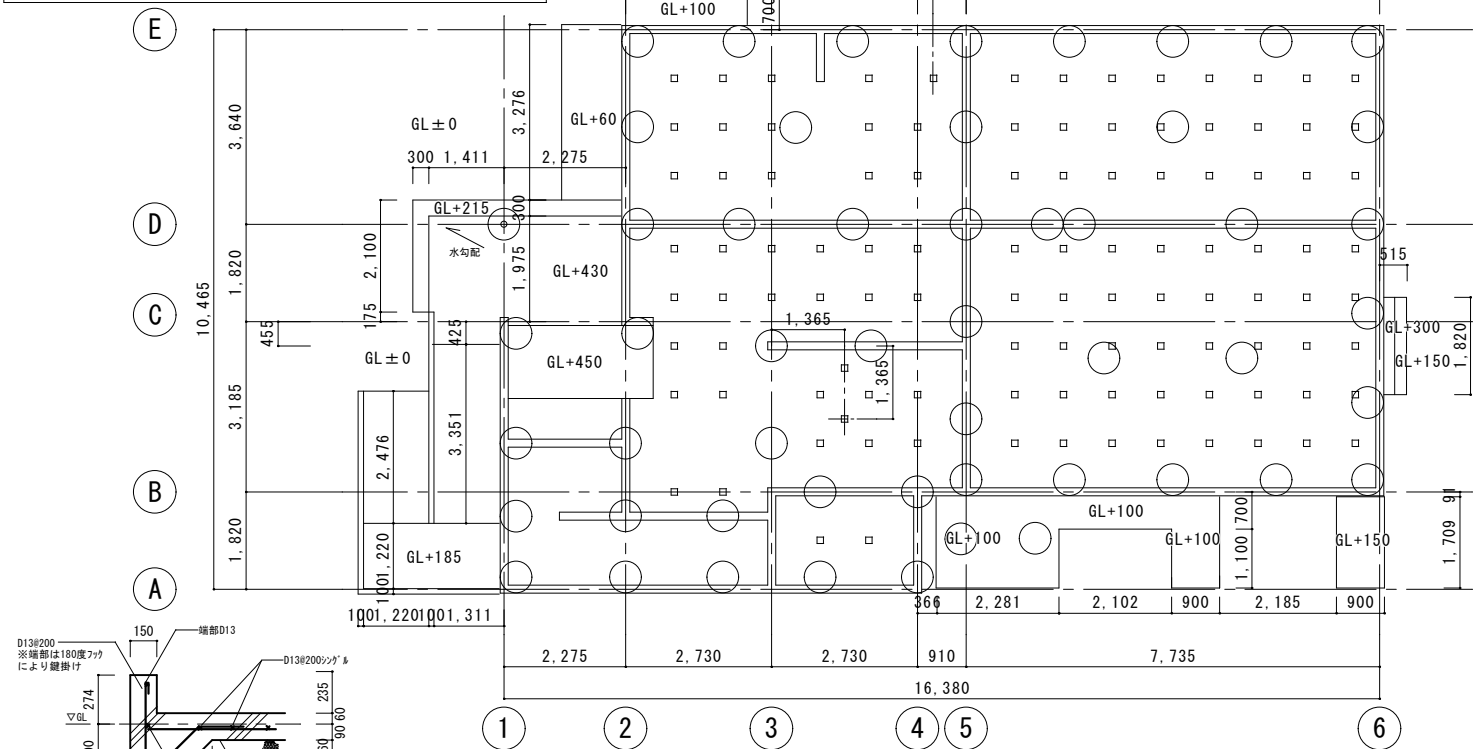
- (注) 1. 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

8. 5 コンクリートブロック帳壁との取合い

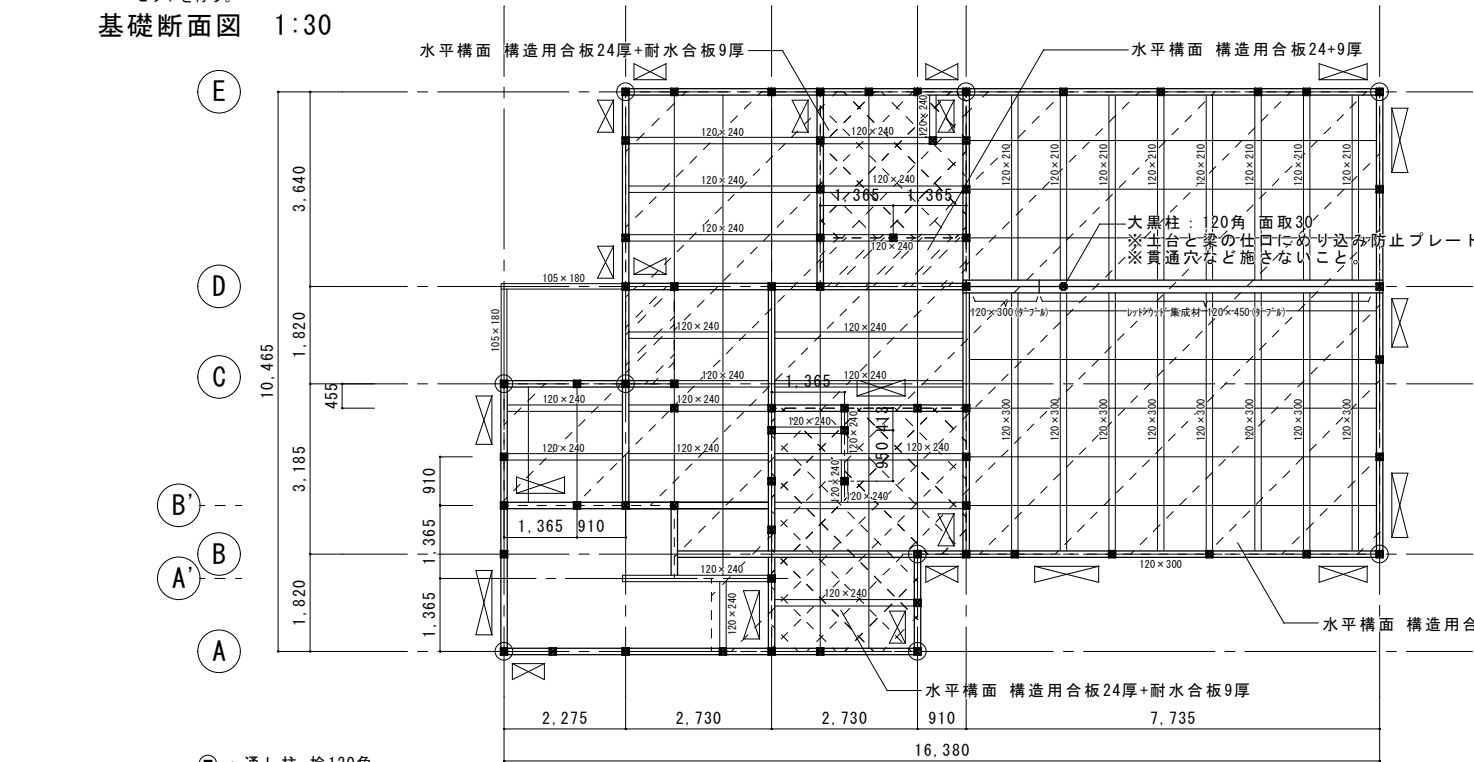


工事名				岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事		No.		〒700-0824 岡山県旭市旭町1-4-21 TEL 086-226-1135	
図面名				鉄筋コンクリート構造配筋標準図3		S-08		1級建築士登録第20100号 丹羽剛人	
岡山市				都市整備局 住宅・建設部 公共建築課		令和7年2月		TEL 086-226-1135	
課長		課長補佐		係長		課員		担当者	
								承認	
								検図	
								製図	

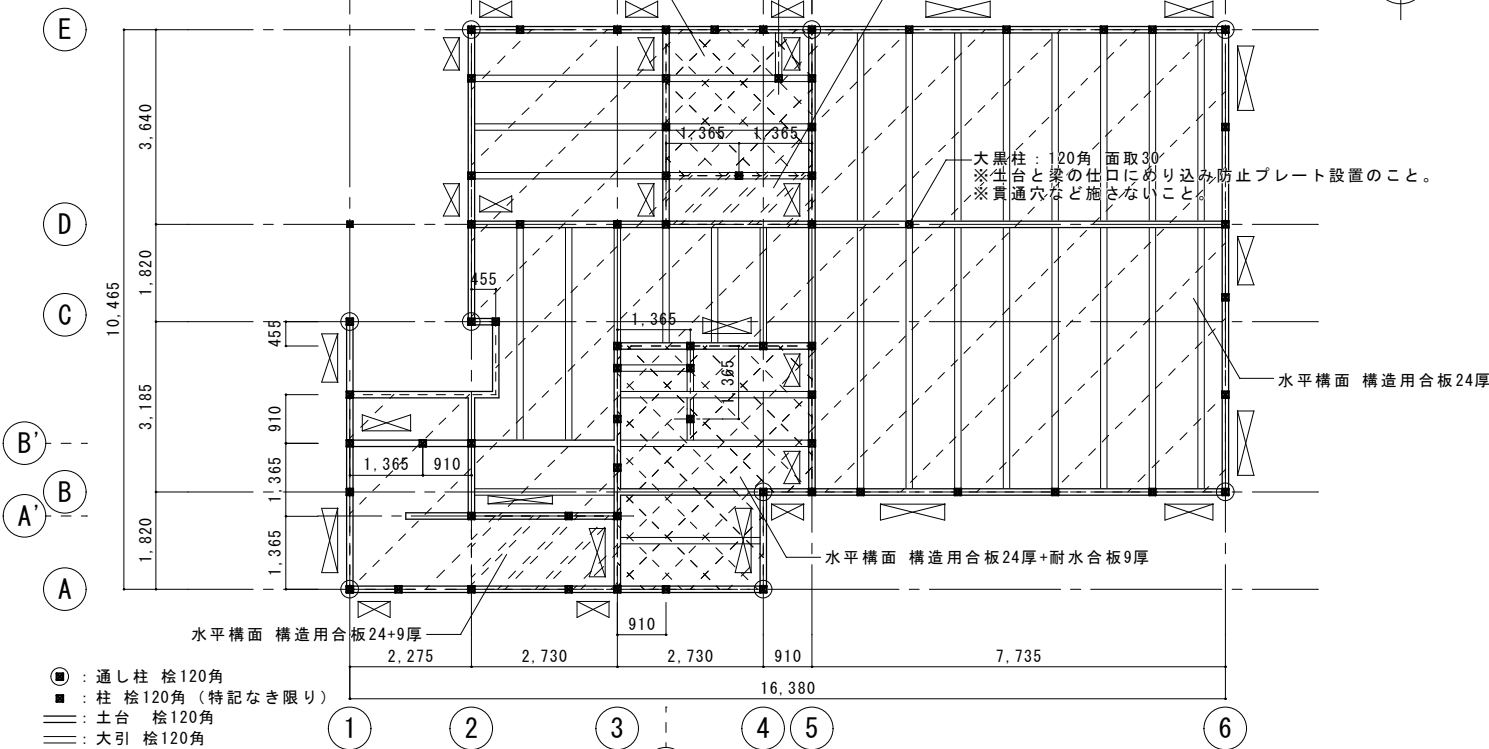
○：柱状改良杭
工法＜参考＞：シリ-スG-cube工法
改良径：φ600mm、改良長：L=2.50m
本数：計52本（建物部分49本+その他3本）
設計基準強度：Fc=800kN/m²、長期耐力度：Lfe=20kN/m²



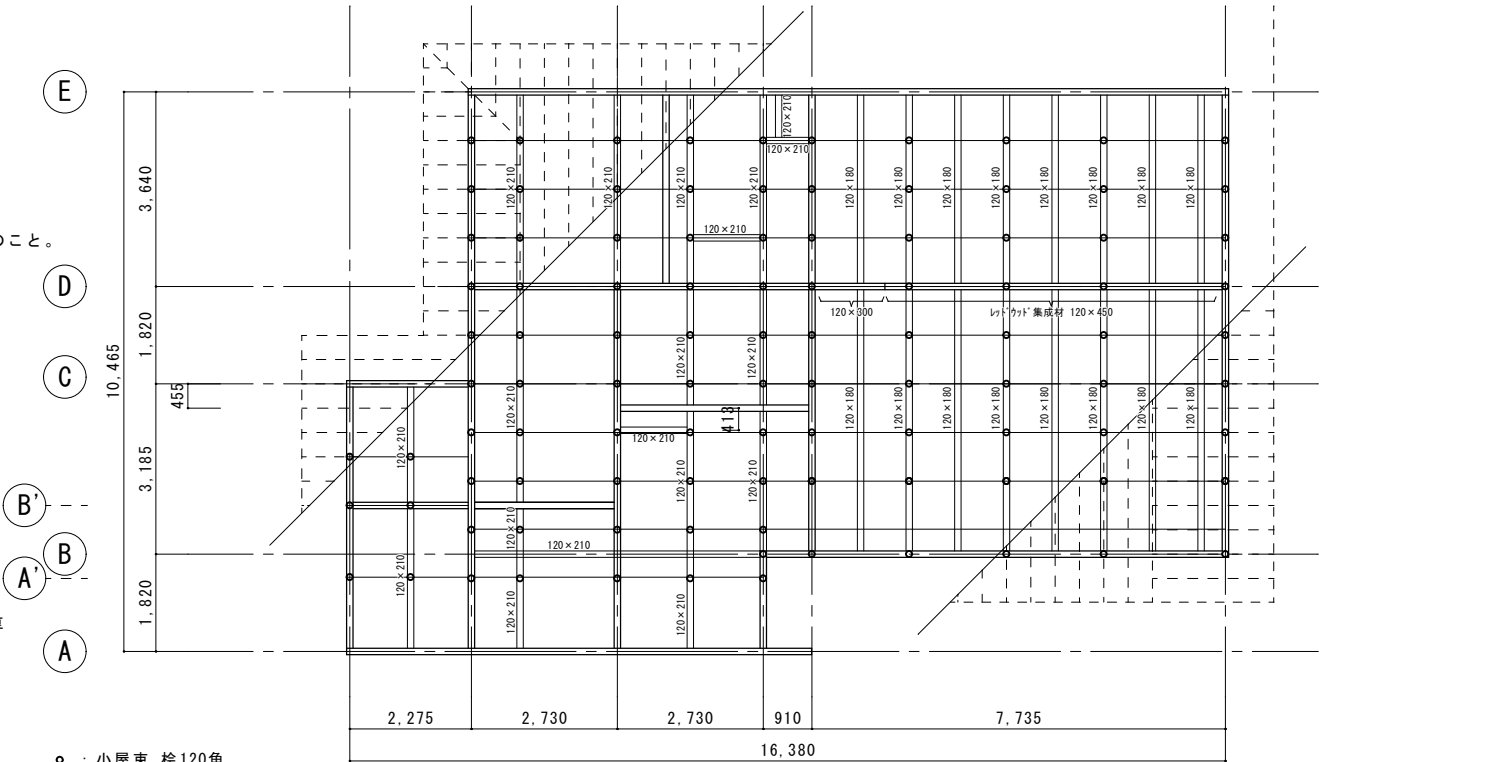
杭・基礎伏図 1:100



2階床伏図 1:100

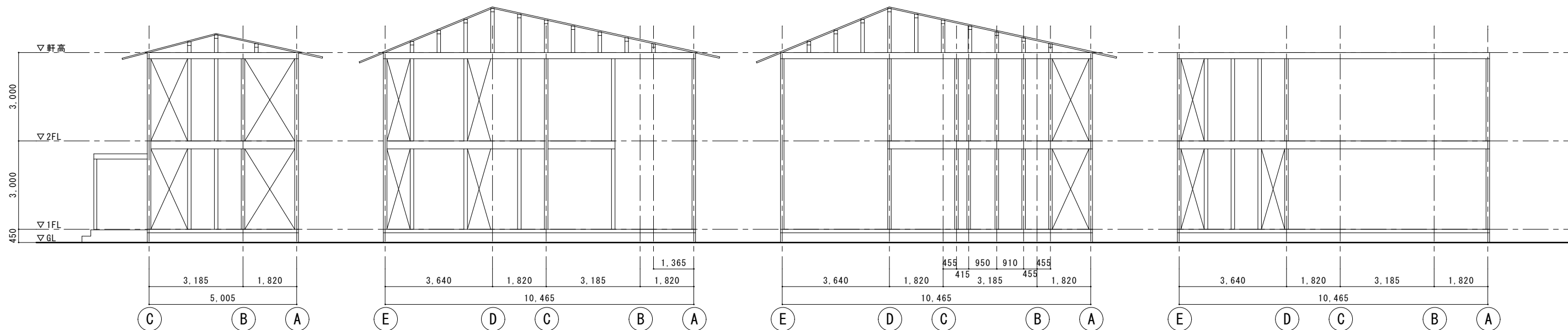


1階床伏図 1:100



小屋伏図 1:100

工事名	岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				N o.	株式会社 丹羽建築設計事務所 岡山県知事登録第1776号 1級建築士登録第320100号 丹羽雅人 〒700-0824 岡山市北区内山下1-4-21 TEL: 086-226-1135		
図面名	杭伏図・基礎伏図・各階床伏図・小屋伏図				縮尺	1/100 (A2) 1/140 (A3)		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					令和7年2月	S-09		
	課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図

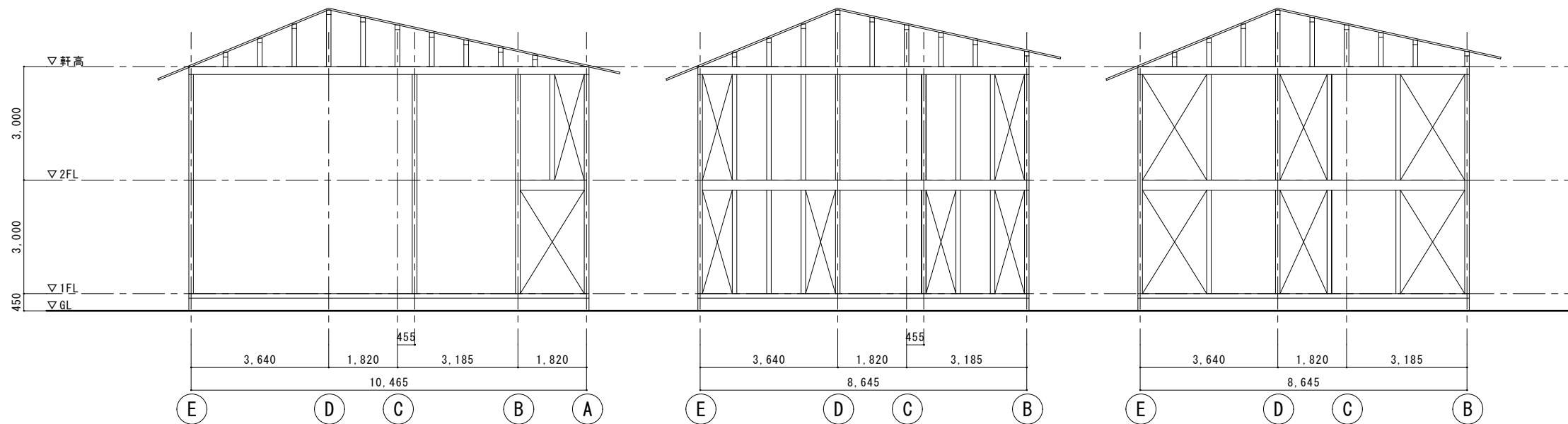


1通軸組図 1:100

2通軸組図 1:100

3通軸組図 1:100

3' 通軸組図 1:100

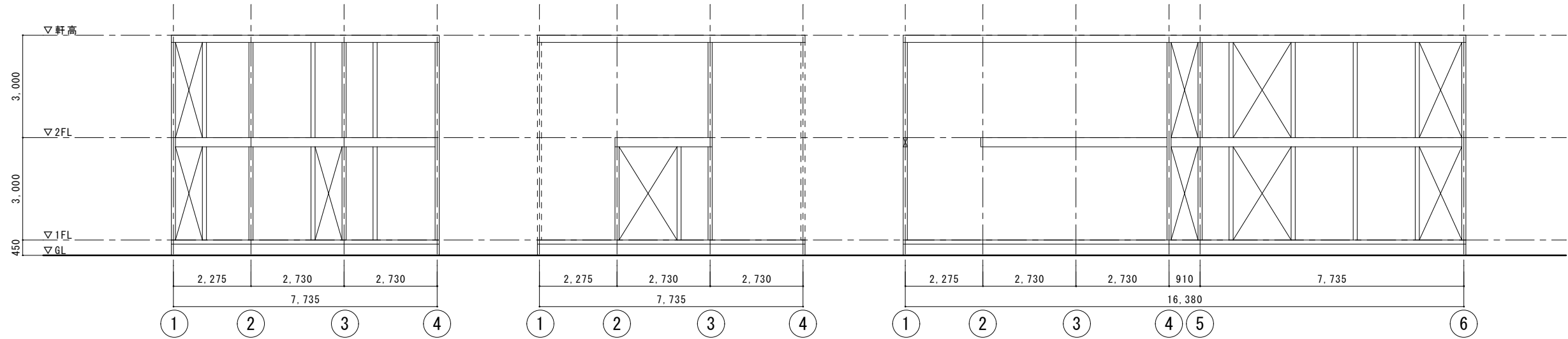


4通軸組図 1:100

5通軸組図 1:100

6通軸組図 1:100

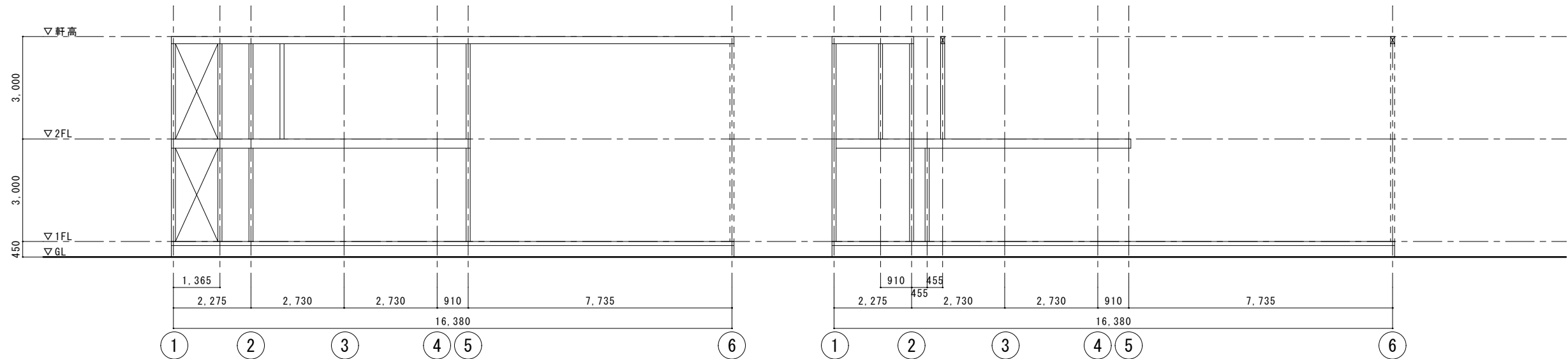
工 事 名		岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				No.		株式会社 丹羽建築設計事務所	
図面名		軸組図1			縮尺	1/100 (A2) 1/140 (A3)	S-10	岡山県知事登録第1776号	
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課						令和7年2月		1級建築士登録第320100号 丹羽雅人	
								〒700-0824 岡山市北区山下1-4-21	
								TEL: 086-226-1135	
課長		課長補佐		係長		課員		担当者	



A通軸組図 1:100

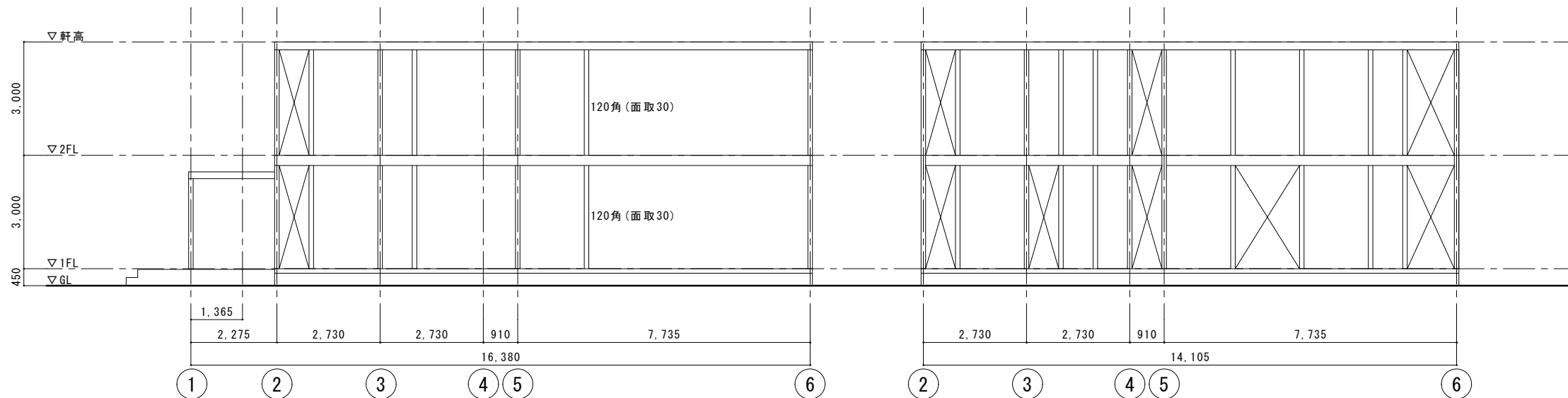
A' 通軸組図 1:100

B通軸組図 1:100



B' 通軸組図 1:100

C通軸組図 1:100



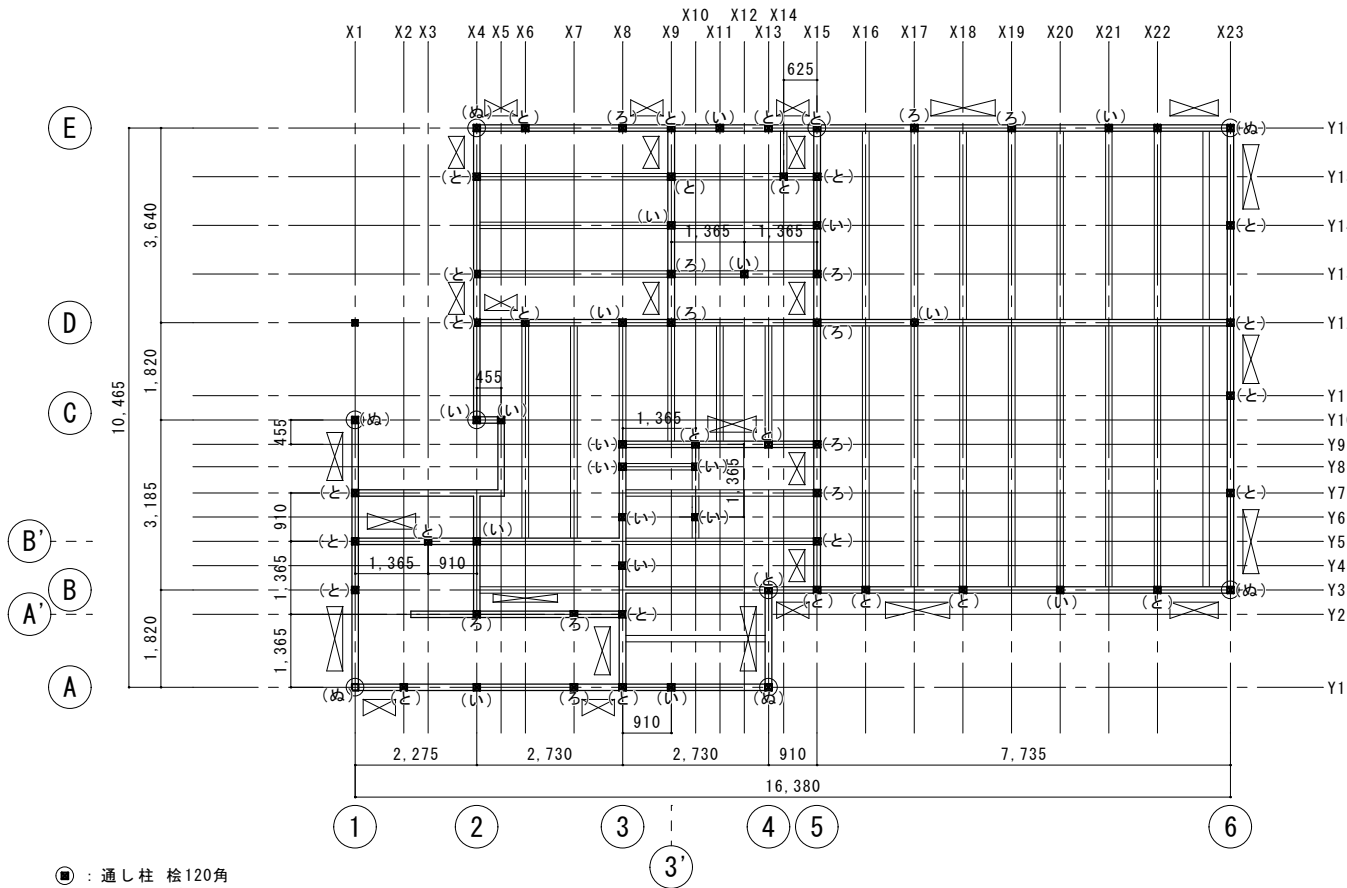
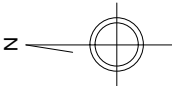
D通軸組図 1:100

E通軸組図 1:100

工事名		岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				No.		株式会社 丹羽建築設計事務所 岡山県知事登録第1776号 1級建築士登録第320100号 丹羽雅人 〒700-0824 岡山市北区内山下1-4-21 TEL: 086-226-1135	
図面名		軸組図2			縮尺	1/100 (A2) 1/140 (A3)	S-11		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課						令和7年2月			
	課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図	

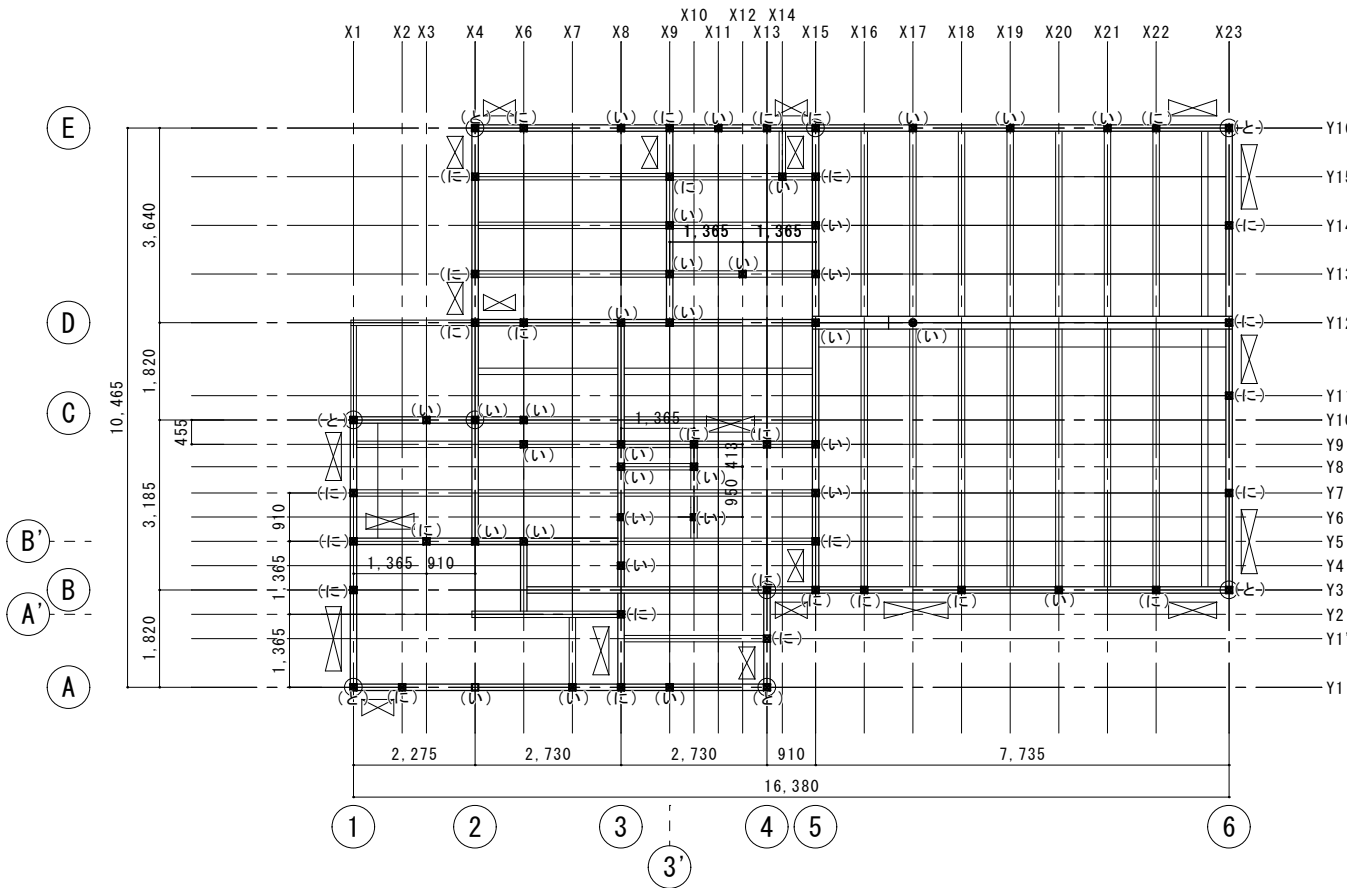
■金物凡例

- (い) : 短ぼぞ差し及びかすがい打ち
 - (ろ) : 長ぼぞ差し込み栓又はかど金物CP-L
 - (は) : 山形プレートVP又はかど金物CP-T
 - (に) : 羽子板ボルト又は短冊金物（スクリュー釘なし）
 - (ほ) : 羽子板ボルト又は短冊金物（スクリュー釘あり）
 - (へ) : 10kN引き寄せ金物
 - (と) : 15kN引き寄せ金物
 - (ち) : 20kN引き寄せ金物
 - (り) : 25kN引き寄せ金物
 - (ぬ) : 15kN引き寄せ金物×2
- ※（と）以上の金物で、
柱脚（土台側）はホールダウン金物で緊結すること。



- : 通し柱 栓120角
 - : 柱 栓120角（特記なき限り）
 - ▬ : 土台 栓120角
 - ▬ : 大引 栓120角
 - ⊠ : 筋交 米松90×45ダブル
- ※GL+1.8mまでの木材には防蟻・防蟻処理を行うこと。

1階床伏図 1:100



- : 通し柱 栓120角
- : 柱 栓120角（特記なき限り）
- ▬ : 梁桁 米松120×270（特記なき限り）
- ⊠ : 筋交 米松90×45ダブル
- ▬ : 受け材 栓90角

2階床伏図 1:100

※金物計算はあくまでも旧基準に則っているため、新基準版は施工前に要確認のこと。

工事名	岡山市立旭竜小学校内児童クラブ室増築工事				N o.	株式会社 丹羽建築設計事務所 岡山県知事登録第1776号 1級建築士登録第320100号 丹羽雅人 〒700-0824 岡山市北区内山下1-4-21 TEL: 086-226-1135	
図面名	接合金物平面図			縮尺	1／100 (A2) 1／140 (A3)	S-12	
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					令和7年2月		
	課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図 製図